

## 東京五輪招致の実現に向けて(2) パラリンピックを日本で

# リハビリからスポーツへ、舵は切られた

パラリンピックは、もはや完全にスポーツだ。リハビリからスポーツへ、世界の流れは、大きく舵を切った。その事実を、誰もが思い知らされたのが北京大会であった。

世界の強豪は、オリンピック選手並みのトレーニングを積んで北京に臨んだ。日本の選手は、リハビリの環境で臨まざるを得なかった。トップ中国のメダル総数211に対して、日本は総数27個の17位。金メダルはアテネ大会の17個から5個に減少。ロンドン大会では総数が更に半減した。

日本の選手は、劣悪な環境の中でよく善戦している。しかし、それももう限界だ。メダル数だけが問題ではないということとは重々承知の上で、日本の障害者スポーツの在り方は、抜本的に考え直さなければならぬ時期に来ている。

いま舵を切れば、東京五輪には間に合う。



写真：記者会見場での藤本選手。シルバー・メダリストの表示が痛々しい

五輪柔道家たちは「金メダル以外はメダルではない」と言い放つ。パラリンピックの柔道家たちもまた「日本の国を背負っている」という強い意識とプライドを持っている。

藤本聡は、北京大会で4大会連続の金メダルを目指して決勝戦まで勝ち進んだ。5分間で決着がつかずに延長戦に入り、アルジェリアのラムリ選手に小外刈りで敗れ、四連覇は成らなかった。

藤本聡は「号泣とも怒号ともつかぬ叫び声を上げながら、コーチに支えられるように」たじろぐ取材陣を後にした。



写真：肩車に乗って喜ぶラムリ(前)、泣き崩れる藤本(右)



写真：表彰式の後、清々しい表情を取り戻した藤本

藤本の4連覇を阻んで金メダルに輝いたアルジェリアのラムリ選手は、マットを降りた直後、コーチの肩車の上で両手を突き上げて身体中で喜びを表わした。



### その日の新聞を読み続けて四半世紀～視覚障害者のためのラジオ放送の挑戦

日本財団のブログ・マガジン(2月14日)でJBSの活動を紹介してくださいました。日本財団またはJBSのホームページで見ることができます。

# ボランティア活動の支援情報

## 自宅から生放送

— デジタル時代を実感 —

音訳ボランティアのためのPCミニ講座の影響もあって、音訳活動にPCを活かす音訳者が増えつつある。ヘッドセットの使い方に慣れていないなど課題はあるもののデータ送信は概ね良好な状態。

掲示板を活用する人はまだ数少ないが、シフト表の利用者は既に多く、デジタル時代の音訳ボランティア活動が実感される。

## 音訳研修会のご案内

JBS音訳研修会を下記の日程で開催します。参加を希望される方は、JBSスタッフまでご連絡ください。

名称— 社会福祉事業研究開発

基金 平成25年度事業

「新聞音訳ボランティア

スキルアップ講座」

日時— 第1回 5月29日(水)

13～17時



第2回 7月24日(水)

13～17時

第3回 9月下旬(3月上旬に確定)

旬に確定)

場所— ドーンセンター

定員— 36名(先着順)

講師— 恵美三紀子(音訳指導者)

受講料— 無料

内容

### ＊1回目

視覚障害者が求める読み(音訳者にとって必要な基礎知識・基礎技術)

### ＊2回目

読み方、図・表などの処理(実技)

### ＊3回目

新聞の音訳(実技。実際の放送のように記事を読む)

## 障害者と就労

### ご支援に感謝

株式会社バリュープランニング

井元憲生代表取締役から多額の

ご寄付を頂戴しました。視覚障害者の就労・社会参加を支援するJBSの人気生放送番組「今日の新聞」の制作費として活用させていただきます。記して、感謝の意を表します。



写真：感謝状を手に、株式会社バリュープランニング 井元憲生代表取締役(右)とJBS日本福祉放送 川越代表(左)

井元憲生代表取締役は、障害者福祉専門家も驚くほどの障害者就労を熱心に考えておられる珍しい実業家。自社での障害者雇用はもちろん、ロータリークラブの活動などでも障害者雇用を推進されている。

写真：井元憲生社長の個性的な生き方が掲載されている著書



## 防災・減災

### 東日本大震災

### 第10回支援活動

赤い羽根「災害ボランティア・NPO

活動サポート募金」助成事業

JBS日本福祉放送は、赤い羽

根助成事業として、岩手県山田

町の音訳ボランティアグループに

対して音訳技術講習会を実施し

ます。

名称— 赤い羽根「災害ボランテ

ィア・NPO活動サポー

ト募金」助成事業

音訳技術講習会

日時— 3月24日(日)

対象— 山田町ボランティアグル

ープ「朗読ボランティア」

内容— 音訳技術およびデジタ

ル録音

編集後記 日本財団のご支援でJBS

S日本福祉放送は、25年前に開局し

ました。以来、阪神大震災の時、今回

の東日本大震災、機器の入れ替えなど

ずいぶんとご支援を頂戴してまいりま

した。

おかげをもちまして、ボランティアの

皆さんに支えられながら全国の見えな

い・見えにくい人びとがその日の新聞を

ラジオを通して読むことが出来ていま

す。視覚に障害を持つ皆さんを代表し

て感謝申し上げます。(川越)